

国際スケート連盟コミュニケーション第2655号

シングルおよびペア・スケーティング

第59回2024ISU総会で承認された特別規程と技術規程の変更点

I. 一般規程

第108条第3項および第4項

3. シングル&ペア・スケーティング/アイス・ダンスにおける年齢制限

国際シニア競技会、ISUシニア選手権大会およびオリンピック冬季大会に参加できるのは、かかる競技会に先立つ7月1日までに17歳に達したスケーターのみである。

- b) 国際ジュニア競技会およびISUジュニア選手権大会に参加できるのは、かかる競技会に先立つ7月1日までに下記の要件を満たしているスケーターである：
- i) 少なくとも13歳に達していること；
 - ii) シングルにおいては、女子および男子ともに19歳に達していないこと；
 - iii) ペア・スケーティングにおいては、女子は21歳、男子は23歳に達していないこと。2人のパートナー間の年齢差は最大7歳まで認められる。
 - iv) アイス・ダンスにおいては、女子は21歳、男子は21歳に達していないこと。2人のパートナー間の年齢差は最大7歳まで認められる。
- c) 国際ノービス競技会に参加できるのは、かかる競技会に先立つ7月1日までに下記の要件を満たしているスケーターである：
- i) ベーシック・ノービス - 14歳に達していないこと；
 - ii) インターミディエート・ノービス - 16歳に達していないこと；
 - iii) アドバンスド・ノービス - 10歳に達し、女子（シングル/ペア・スケーティング/アイス・ダンス）および男子（シングル）は16歳、男子（ペア・スケーティング/アイス・ダンス）は18歳に達していないこと。

II. 特別規程

第413条第1項 a)

1. 国際ジャッジとして初めて任命されるためには、役員は、次の要件を満たしていなければならない：

a) 年齢：推薦を受ける暦年に24歳に達しなければならず、60歳に達してはならない。

ジャッジが既に他のISUフィギュアスケート競技種目において国際ジャッジまたはISUジャッジ／レフェリーとしてISUリストに含まれている場合、60歳の年齢制限は適用されない。

第412条第1.2.3.4項および第413条第1.2.3.4項

対面でのセミナーの有効性とジャッジおよびレフェリー試験を受験するための要件

対面でのセミナーは、再任命されるためのセミナー参加要件として4シーズン間有効となる。

国際ジャッジ、ISUジャッジおよび/またはレフェリーに任命されるためのいずれかの試験を受験する年に先立つ4シーズン以内に対面でのセミナー参加が必要である。

第413条第3項 c)

ISUジャッジとして初めて任命されるための活動要件

活動：推薦を受ける暦年の7月1日31日に先立つ36か月間4シーズン間に、ジャッジとして活動していること；

第414条第2項b)、第415条第2項b)、第4項b)

テクニカル・コントローラー、テクニカル・スペシャリスト、データ&リプレイ・オペレーターとして再任命されるための活動要件

活動：推薦を受ける暦年の7月1日31日に先立つ24か月間3シーズン間に、テクニカル・コントローラーまたはテクニカル・スペシャリストとして活動していること；

第414条第3項 b)

ISUテクニカル・コントローラーの推薦および任命されるための特別要件

i) 推薦される直前の連続した4年間、毎年のISUコミュニケーションの役員（第122条第2項）に、国際ジャッジ、国際レフェリー、ISUレフェリーまたはISUジャッジとして含まれていること、あるいは、推薦される直前の連続した4年間、ISUコミュニケーションの役員にISU テクニカル・スペシャリストとして含まれていること；

第415条第1項 a)；

国際テクニカル・スペシャリストとして初めて任命されるための年齢

年齢：推薦を受ける暦年の7月1日以前に24歳に達していなければならず、60歳に達してはならない。

第416条第1項 a)；

国際データ&リプレイ・オペレーターとして初めて任命されるための年齢

年齢：推薦を受ける暦年の7月1日以前に24歳に達していなければならず、60歳に達してはならない。

第430条 f)

- 携帯電話、タブレット、スマートウォッチなど電子的通信装置は、いかなるものであれ、役員が役員席にいるあいだ、電源を切らなければならない。ただし、テクニカル・パネルがテクニカル・ハンドブックの電子版を参照する必要がある場合は例外とする。タブレットなどの装置を使用することはできるが、すべての電子的通信機能は使用できないようにしておかなければならない。

Ⅲ. 技術規程

第504条第3項a)およびb)：

コンポジション

さまざまな種類の動きを意図をもって組み合わせる、独創的に組み合わせる、練り上げるなどして、調和、統一感、空間、形式、音楽構造とあらゆる面で全体として意味のある形に仕上げる能够做到しているか。

構成を評価するには以下を考慮しなければならない。

- ・ 多次元的な動きと空間の利用
- ・ 要素中および要素間のつなぎ・つながり
- ・ 音楽のフレーズや表現形式を反映した振り付け
- ・ パターンおよび氷面の十分な利用
- ・ 統一感

プレゼンテーション

音楽と構成を理解し、心を込め、全身かつ全力でそれを表現できているか。

プレゼンテーションを評価するには以下を考慮しなければならない。

- ・ 表現と投射
- ・ エネルギーや動きの多様さ、メリハリ
- ・ 音楽に対する感受性、タイミング
- ・ ユニゾン、一体感と空間認識（ペア・スケーティング、アイス・ダンス）

スケーティング・スキル

ブレードと身体をコントロールし、さまざまなステップ、ターン、スケーティング動作などスケートらしい動きができていますか。

スケーティング・スキルを評価するには以下を考慮しなければならない。

- ・ 多彩なエッジ、ステップ、ターン、動き、方向
- ・ エッジ、ステップ、ターン、動き、身体コントロールの精度
- ・ バランスとなめらかな滑り
- ・ 流れ
- ・ パワーとスピード
- ・ ユニゾン（ペア・スケーティング、アイス・ダンス）

b) プログラム・コンポーネンツの採点（演技構成の採点）

プログラムの演技終了後、第353条j)に従い、各ジャッジが、0.25から10まで0.25刻みの点数でプログラム・コンポーネンツを採点する。ジャッジが与える得点は、以下に示すプログラム・コンポーネンツの各段階に対応する：

- 1未満 - きわめて劣る
- 1～1.75 - 非常に劣る
- 2～2.75 - 劣る
- 3～3.75 - 弱い
- 4～4.75 - 平均以下
- 5～5.75 - 平均的
- 6～6.75 - 平均以上
- 7～7.75 - よい
- 8～8.75 - 非常によい
- 9～9.75 - 卓越
- 10 - 傑出

0.25の刻みは、ある特徴は1つの段階にあり、他の特徴はその上の段階にあるというような演技を評価する際に用いる。

第513条第2項

1. フリー・スケーティング／フリー・ダンス

- a) フリー・スケーティング／フリー・ダンスの滑走順は、ショート・プログラム／リズム・ダンス またはパター・ダンスの順位の逆順とする。

第515条4項b)

b) 3分以下

競技者が40秒以内に演技を再開しなかった場合、レフェリーは音楽を停止するよう担当者に命じるとともに3分間の追加猶予を競技者に与える。この追加時間内に演技が再開された場合、レフェリーは第353条第1項n)に定められた減点5.0を適用する。もしくは医療行為が必要な場合、第515条第5項に従い減点はなしとする。この減点は、追加の3分間に先立つ40秒の中断もカバーするものである。

第515条5項

- 5. 医療行為が必要な場合（鼻血を含む），レフェリーは、合図音で演技を止めるよう競技者に指示し、その後、メディカル・プロトコル（コミュニケーション2267号あるいはその改訂版）に従う。

第610条

違反要素／違反動作は以下のとおり。

- サマーソルト型ジャンプ
- 不正なホールドでのリフト

第611条第3項

ジュニアのショート・プログラムは下記の必須要素により構成される。

2024～2025

男子

- a) ダブルまたはトリプルのアクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのフリップ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、1つのダブルと1つのトリプルあるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) 足換えを1回のみ行うシット・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

女子

- a) ダブル・アクセル・パウルゼン
- b) ダブルまたはトリプルのフリップ・ジャンプ
- c) 2つのジャンプによって構成されるジャンプ・コンビネーションで、2つのダブル、あるいは1つのダブルと1つのトリプル、あるいは2つのトリプルからなるもの
- d) フライング・キャメル・スピン
- e) レイバック／サイドウェイズ・リーニング・スピン、または、足換えのないシット・スピン
- f) 足換えを1回のみ行うスピン・コンビネーション
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

第620条

ペア・スケーティングのショート・プログラム

2. シニアのショート・プログラムは、下記の必須要素により構成され、3つのグループがある。各年の7月1日に発効するグループは以下のとおり。

2024～2025

- a) ハンド・ツウ・ハンド・リフト踏み切り（グループ4）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) スロウ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- d) ソロ・ジャンプ（ダブルまたはトリプル）
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

3. ジュニアのショート・プログラムは下記の必須要素により構成され、3つのグループがある。各年の7月1日に発効するグループは以下のとおり。

2024～2025

- a) ハンド・ツウ・ハンド・リフト踏み切り（グループ4）
- b) ツイスト・リフト（ダブルまたはトリプル）
- c) ダブルまたはトリプルのサルコウ・スロウ・ジャンプ
- d) ダブル・フリップまたはダブル・アクセルのソロ・ジャンプ
- e) 足換えを1回のみ行うソロ・スピン・コンビネーション
- f) デス・スパイラル・バックワード・アウトサイド
- g) 氷面を十分に活用したステップ・シーケンス

IV. ISUコミュニケーション2623および2624

これらのコミュニケーションの内容は、第59回ISU総会の決定に従ったものである。これらは現在、総会の決定に従って更新されている。

2024年7月15日

Jae Youl Kim 会長

Colin Smith 事務局長